

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

リオ五輪の「君が代」で注目を浴びた
日本を代表するオーケストラ、待望の鳥取公演

勝利の ブルックナー

ああ、こんなにも美しく、温かい音楽があったとは！
人間と自然への愛を高らかに謳う！

これぞ、人類が遺した
《最高峰の音楽》

涙が自然とあふれるほどの、
圧倒的なスケール感！



管弦楽：読売日本交響楽団

モーツァルト：
ヴァイオリン協奏曲第3番 卜長調 K.216
ブルックナー：
交響曲第7番 ホ長調



小澤征爾も認めた期待の新星！
ロンドン・フィルやベルリン・ドイツ響などと共演

ヴァイオリン：
アレクサンドラ・スム

首席客演指揮者としてのラスト・ツアー
万感の想いを胸に大曲を振る！

指揮：下野竜也
(首席客演指揮者)

読売日本交響楽団 鳥取特別演奏会

2017年 **3月10日** (金) 19時開演 (18時30分開場)
とりぎん文化会館 梨花ホール (〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5)
(徒歩/JR鳥取駅から若狭街道を県庁方面へ約20分)

S¥4,800 A¥3,800 (全席指定・消費税込)

◆車いす席 (S席価格) の取り扱いは、とりぎん文化会館のみ。
◆鳥取県文化振興財団友の会プレミアム会員は、定価の500円割引。 ◆読響会員は定価の1割引。
◆未就学児のご入場は固くお断りいたします。 ◆都合により演奏者及び曲目が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、日本海テレビ、読売日本交響楽団 共催：(公財)鳥取県文化振興財団

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター **0570-00-4390**
<http://yomikyo.or.jp/> (10時~18時・年中無休/年末年始を除く)

プレイガイド：とりぎん文化会館 **0857-21-8700**
倉吉未来中心 **0858-23-5391**
アルテプラザ・米子天満屋4F **0859-38-5127**
ローソンチケット **0570-084-006** (Lコード：61799)
チケットぴあ **0570-02-9999** (Pコード：308781)

10月22日(土)
10:00~
発売開始

生きる喜び、究極の美。 ブルックナーの至高の音楽。

ブルックナーの交響曲は、読響の“おはこ”とされる得意のプログラムで、歴代常任指揮者らと数々の名演を築いてきました。下野竜也とのブルックナーも高く評価されており、東京公演では終演後にスタンディングオベーションが起こるなど、熱狂的に支持されています。

ブルックナーの交響曲の中でも最高傑作の呼び声高い第7番は、宇宙をも包み込むような壮大な響きが特徴で、聴く者を圧倒的な感銘へと誘います。まさに自然を通して人間が勝ち得た〈最高峰の音楽〉で、生きる喜びが表れた感動的な音楽です。読響が誇る厚みのある弦楽器の響きや、光り輝く管楽器のハーモニーを存分にご堪能ください。これまで、ブルックナーの音楽を聴いたことがない方にも、きっとブルックナーの音楽の魅力を感じていただけるはず。下野&読響の熱い思いの込められた演奏にご期待ください。

前半のモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番は、優雅な曲調の中にユーモアも散りばめられた明るく快活な作品。フランス在住の新星アレクサンドラ・スムがソリストを務めます。完璧なテクニックと豊かな音楽性を持ち、小澤征爾も絶賛する欧州で注目を浴びる若手が、その類稀なる才能で聴衆を魅了することでしょう。

指揮 下野竜也

Conductor: Tatsuya Shimono

©読響

鋭い感性と熱いハートで活力に満ちた音楽をつくる俊英指揮者。2006年から6年余り、読響・正指揮者として、意欲的なプログラムを次々に披露し、多大な功績を残した。13年4月からは読響・首席客演指揮者を務めており、確固たる評価を得ている。2017年3月末に同ポストを退任する。

1969年鹿児島生まれ。大阪フィルの指揮研究員時代には、朝比奈隆らの薫陶を受けた。ウィーン国立演劇音楽大学に留学中、東京国際音楽コンクールとプザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以降、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響、ローマ・サンタチェチリア管などと共演し、国際的な活躍を展開している。霧島国際音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本などの音楽祭でも活躍。現在、広島ウインドオーケストラ音楽監督、京響常任客演指揮者。2017年4月には広響音楽総監督に就任予定。

ヴァイオリン アレクサンドラ・スム

Violin: Alexandra Soumm

小澤征爾も認めたフランスの新星ヴァイオリニスト。フリーベック・デ・ブルゴス、ブロムシュテット、N.ヤルヴィ、スラットキン、ヴァンスカ、ソヒエフら著名指揮者の指揮で、ロンドン・フィル、ベルリン・ドイツ響、パリ管、ロサンゼルス・フィルなどと共演している。室内楽でもロンドンのウィグモア・ホールやブリュッセルのパレ・デ・ボザールなどでリサイタルを開催。録音では、クラヴェス・レーベルから2枚のCDをリリースし、高い評価を得ている。モスクワ生まれ。5歳の時にヴァイオリンを始め、ウィーンに移り、名教師ポリス・クシュニールに学んだ。2004年には、ルツェルンでのユーロヴィジョン・コンクールで第1位を得た。現在はパリを拠点に世界各地で活動を展開している。

読売日本交響楽団

Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

1962年、オーケストラ音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。アルブレヒトやスクロヴァチェフスから世界的巨匠が常任指揮者を歴任し、現在はカンブルランが常任指揮者を務めている。2015年3月には、欧州公演をカンブルランの指揮で行い、現地の音楽関係者から「長い歴史にふさわしく洗練された響きを持つ」と最上級の評価を受けた。同年9月にはカンブルランの指揮でワーグナー「トリスタンとイゾルデ」を演奏会形式で行い、新聞や雑誌で絶賛された。現在、名誉顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、東京・赤坂のサントリーホールでの定期演奏会を軸に充実した内容の演奏会を多数開催している。また、病院や小中学校での演奏なども手掛け、社会貢献や音楽文化のすそ野拡大にも地道な努力を続けている。14年のソチ五輪から使用されている「君が代」の演奏（指揮：下野竜也）を務めており、16年8月のリオデジャネイロ五輪で大きな話題を呼んだ。http://yomikyoku.or.jp/

©Béatrice Cruveiller